

経営協議会学外委員からの主な意見等への対応状況（平成26年度）

経営協議会	学外委員からの主な意見等	対応状況
<p>第68回 (平成26年6月19日)</p>	<p><b>【平成25事業年度に係る業務の実績報告書（案）について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が自身の目標を設定するため、学生による授業評価のフィードバック結果をそれぞれがどのように活用するかが重要である。</li> </ul>	<p>大学教育センターでは、教員が授業評価を受けることにより、教員各人が本学の教育の現状を把握するとともに、カリキュラム編成や少人数クラス・基礎科目の演習付加等について具体的な改善を図るための検討資料として活用している。また、授業改善に役立てる方策として、実際のアンケート集計結果を素材にワークショップ形式による討論会（「学生による授業評価アンケート活用PD（Professional Development）」平成27年1月9日）を実施し、12名の教員が参加した。</p>
<p>第73回 (平成26年12月18日)</p>	<p><b>【i-パワーエネジー・システム研究センターの設置について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本センターの技術研究によって、環境へ配慮しながら途上国のインフラをも整備することができれば、千載一遇のチャンスとなる。産学連携を進めていくためには、企業のニーズも捉えてアピールしてはどうか。</li> <li>海外でソリューションの持続的な展開を行うには、その国への理解がなければ難しい側面がある。まずは日本で事例を確立し、それを発展的に進めていくことも視野に入れてはどうか。</li> <li>企業等も研究している分野であるから、「スピード」と「他社技術との差別化」を意識していくことが重要である。</li> <li>大学ならではの研究開発やシステムづくりを構築し差別化していくべきである。</li> </ul>	<p>国内の主要蓄電池企業（パナソニック、NECなど）も当センターの活動に強い関心を持っているため、これらの企業と産学連携活動を進める予定である。</p> <p>海外、特にバングラディッシュについては、在日バングラディッシュ大使の賛同を得ており、本年2月には現地調査も実施した。今後、国内での実証なども視野にいれて活動を促進する予定である。</p> <p>企業が当面のビジネスとして取り組むのが困難な発展途上国ニーズに産学官連携で取り組み、連携企業が他企業と差別化できる事業展開を目指せるようにソリューションを共同で企画、開発していく予定である。</p> <p>上記の企業との連携活動に学生が参加するシステムを確立し、専門性、プロジェクト推進力、リーダーシップを併せ持ちグローバルに活躍できる人材の育成に貢献する予定である。</p>
<p>第75回 (平成27年2月19日)</p>	<p><b>【100周年記念事業について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「100周年」という特別性を打ち出すような企画を、大学から積極的に発信していくアクションを期待している。</li> <li>100周年を契機として地域とさらに連携していくことは重要であり、そのための広報は大いに意味がある。電気通信分野の進化と電通大の発展及びその貢献をリンクできるような広報等、市民に向けた事前の広報も継続的に取</li> </ul>	<p>100周年記念事業の目的・方針に沿いながら、委員からの意見を踏まえて施策や企画などを、創立100周年記念事業委員会で検討している。100周年事業においては、地元との連携を重要視しており、市民に向けた広報の方法を含め、100周年事業を連携してどう進めるかについて調布市と連絡会をスタートさせた。例えば、市報の活用やHPのリンク、電通大通りへのフラッグの掲揚などについて打合せを開始した。ま</p>

	<p>り組んではどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この大事業の機会に、電通大のアピール度を高めていくべきであり、大学を取り巻く非常に厳しい淘汰の競争の中で、この事業をどう利用していくかという視点が必要になってくる。</li> </ul>	<p>た、大学内で散発的に行われているシンポジウムや学術講演会などに「100周年」の冠を付け、番号付けをし、統一的に広報する企画を立てた。</p>
<p>第76回 (平成27年3月19日)</p>	<p><b>【第3期中期目標・中期計画素案について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化の視点から留学生の存在は重要であるから、留学生にとっても魅力あるキャンパスを目指し、「留学生が光る電通大」を目標としてもいいのではないか。</li> <li>電通大が果たす社会貢献について、さらに具体的な取り組みを掲げてもらいたい。</li> <li>情報通信分野における先端を目指していく記述があってもよいのではないか。</li> <li>電通大の特色を端的に示す、インパクトあるフレーズを検討してもらいたい。</li> </ul>	<p>4月3日に行った文科省との相談を踏まえながら、指摘された事項について検討している。情報通信分野における連携取組は積極的に進行中であり、検討の上記載したい。</p>
	<p><b>【寄附講座の設置について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寄附講座は企業にとって社会貢献の意味も大きい。今後も電通大に寄附を行うメリットをアピールできるような成果を出し、社会に広報していくべきである。</li> <li>企業から基金を集めるにあたり、寄附講座という形で寄附を募るのもよい。</li> </ul>	<p>本学で初めて受入れることになった住友電工グループ社会貢献基金寄附講座については、Webサイトを通じて活動状況を公開していくことを計画している。その最初として平成27年3月に、大学Webサイトにて採択を受けたことを広報した。</p> <p>100周年キャンパス先端共同研究施設への企業誘致の方策として、寄附講座を入居形態の選択肢として提案していくことを検討している。</p>